

# 信用できないもの

浅野 一弘

「信用できないものなんですか」と問われ  
たとき、みなさんは、なんと回答するであらう  
か。ある人は、天気予報と答えるかもしれない。  
気象予報士さんのことは聞いて、傘を  
もって外出したものの、晴天の一日に終わつ  
たとの不満をもらすことであろう。また、信  
用できないものとして、競馬の予想と回答す  
る人もいるにちがいない。予想にもとづいて  
馬券を購入したのに、大はずれといった経験  
をもつ人も多数いることであろう。だが、わ  
たしが信用できないものはそれらとは異なる。

まず、信用できないものの一つめが、政治  
家のことである。たとえば、二〇一七年六  
月一九日、第一九三回通常国会の閉幕にあわ  
せて実施された記者会見において、安倍晋三  
首相は、「信なくば立たずであります。何か  
指摘があればその都度、真摯に説明責任を果  
たしていく」と語った。これは、国家戦略特  
区における獣医学部の新設をめぐる、安倍  
の親友・加計孝太郎が理事長をつとめる岡山  
理科大学への便宜がはかられたのではないか  
との疑念に対する発言である。しかも、安倍  
は、衆議院解散をまえにした、九月二五日に、  
「国民の皆様に対して御説明もしながら選挙  
を行う」とも断じていたのだ。だが、一〇月

一〇日にスタートした、第四八回衆議院議員  
総選挙期間中、安倍が、この《口約》をはた  
すことは、いつさいなかった。おそらく、安  
倍は、説明責任Ⅱアカウンタピリテイとい  
うことばの意味（説明を聞いた側が納得でき  
るような説得力ある内容でないといけない）を  
理解できていないのであろう。にもかかわらず、  
自民党は、二八四議席を獲得し、安倍の  
続投がきまつた。

つぎに、わたしが信用できないもの、それ  
は、バスのダイヤである。運転免許を保有し  
ていないわたしは、バスをよく利用するが、  
ダイヤどおりにバスがきたためしがないと  
いつても過言ではない。また、わたしが利用  
するバス会社では、一二月一日から冬ダイヤ  
への変更がなされ、翌年の四月一日から夏ダ  
イヤにもどるかたちが採用されている。だが、  
考えてみれば、ふだんから時間どおりにバス  
を運行できていないなかで、なんのために、  
季節によるダイヤの変更が必要なのであろう  
か。雪まみれになってバスを待つわたしは、  
バス会社に対して、過去の経験をいかし、実  
現可能なダイヤを作成してもらいたいと願う  
のは、おかしいことであろうか。  
わたしは北海道に住んで一七年目になるが、

この間、バス会社のサービスが劇的に改善さ  
れてきたとはとうてい思えない。これは、バ  
スが公共交通であり、どれほどの不満をいだ  
いていたとしても、利用者はバスを選択せざる  
を得ない実状があるからであろう。そのた  
め、こうした異常な状態がつづいてしまつて  
いるのだ。こうした状況をまえにして、われ  
われは、いま一度、「公共」の意味について  
考えてみる必要があるように思えてならない。

公共交通機関といえは、JR北海道の時刻  
表も信用できないものの好例であろう。新千  
歳空港にむかうとき、仕方なく、JRを利用  
することがあるが、定刻どおり、列車が動い  
たためしがない。しかも、列車が遅れても、  
そのことに関するアナウンスが入らない場合  
がほとんどだ。ここに、JR北海道の組織体  
質をかいまみることができ。こうした意識  
をもつて乗客に接しているため、さまざま  
な問題をひきおこすことになっているの  
かもしれない。

そう考えてみると、近年、信用できないもの  
がどんどんとふえてきているような印象を  
もたないでもない。きわめて危険な兆候だ  
と思うが、とりわけ、「公」への不信感の増大  
は顕著ではなからうか。「公」に対する不信  
がたかまればたかまるほど、社会は不安定化  
していくにちがいない。だからこそ、「公」  
の立場にある者は、いま一度、信用されるこ  
との重要性を再認識し、襟をただして、行動  
していくべきように思えてならない。

▲あさの かずひろ・札幌大学教授▽